

企業化状況の実態調査票

記載例

(令和6年4月1日～令和7年3月31日)

助成事業年度	令和 1 年度	企業名	(株) ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎			
事業内容	(例) 長野県産果実を活用した機能性飲料の開発					
資本金	2,000 万円	従業員数	75 人	売上高	375,000 万円	
株式の上場あるいは公開の有無	1 有り (年 月) ○ 2 無し					

1 令和6年度において該当する項目がありましたら、○印をしてください。

助成事業の成果に基づく製品の販売又は譲渡	○あり・なし
助成事業の成果に基づき取得した特許権、実用新案、もしくは意匠権の譲渡又は実施権の設定	あり・なし○
上記に掲げるもののほか、助成事業の他への供与（助成事業で得たノウハウを他へコンサルティングを行い収益を得た場合など）	あり・なし○
製品化の状況 事業化状況 (どの段階か ○印をつけて ください)	1 第1段階 製品販売に関する宣伝等を行っている。 2 第2段階 注文(契約)がとれている。 3 第3段階 製品が1つ以上販売されている。 4 第4段階 継続的に販売実績があるが収益はない。 ○5 第5段階 継続的に販売実績があり収益もある。

2 1について「あり」の場合は、次表に記載してください。（「なし」の場合は3へ進んでください）

試作品又は製品の名称 (産業財産権の譲渡等も含む)	販売 数量・単価	販売又は譲渡 金額(円) A	総収入を得るに 要した額(円) B	本年度収益額 (円) A - B
長野県産果実による機能性飲料	57,500 本 300 円/本	17,250,000	15,434,310	① 1,815,690

注) 「販売又は譲渡金額」の算出根拠資料として、試作品又は製品の原価計算書（次表を参考）、生産及び販売実績書、特許権等の譲渡契約書の写し等を添付してください。

(参考) 【原価計算書】

科 目	金 額 (円)	備 考
A 原材料費	6,276,750	
B 外注加工費	1,158,000	
C 労務費	5,029,240	
D 工場経費	2,513,920	
(1) 電力費		★一致します。
(2) 燃料費		
(3) 修繕費		
(4) 消耗品費		
(5) 保険料		
(6) 減価償却費	2,513,920	
(7) 福利厚生費		
(8) その他の経費		
E 当期総製造費用 (A + B + C + D)	14,977,910	
F 期首仕掛品棚卸高	3,690,000	
G 期末仕掛品棚卸高	3,450,000	
H 当期製造品製造原価 (E + F - G)	15,217,910	
I 一般管理費及び販売費	216,400	
J 総原価 (H + I)	15,434,310	

- 3 追加試験研究の実施状況の有無について該当する項目に○印をつけてください。

助成事業に係る追加試験研究の実施	○あり・なし
------------------	--------

- 4 3について「あり」の場合、次表に記入してください。（「なし」の場合は、5に進んでください。）
助成事業に係る追加の所要経費について記載してください。

	年 度	総事業費(円)	助成対象経費(円)	助成金額(円)	控除額(円)
(R 1)	助成事業年度	② 12,460,000	4,500,000	③ 2,980,000	④ 1,896,000
(R 2)	助成事業終了後1年目	5,171,000			
(R 3)	助成事業終了後2年目	2,497,000			
(R 4)	助成事業終了後3年目	0			
(R 5)	助成事業終了後4年目	0			
(R 6)	助成事業終了後5年目				
	合 計	⑤ 20,128,000	4,500,000	2,980,000	

※ 控除額④の算出方法＝（②助成事業年度総事業費－③助成金額）÷5（年間）
この例の場合、 ④＝（12,460,000－2,980,000）÷5＝1,896,000円

- (2) 追加試験研究の内容や企業化の見通し等について記載してください。

追加試験研究の実施状況	【内 容】 さらなる製品レベルの向上を目指して成分抽出プロセスの見直しを実施した。
	【成 果】 機能性成分のポリフェノールの含有率が10%向上することができた。
	【助成事業との関連】 助成事業を受けて開発した製品の性能を向上させるもの
企業化の見通し	令和2年度秋以降に出荷した製品は、より機能性の高い製品で販売している。

- 5 製品化に至らない、かつ試験研究を継続していない場合、その理由を記載してください。

助成を受けた開発のうち○○は、機能性に対してコストが見合わず、製品化に至らなかった。

6 助成事業における自社内への波及効果

(製品化に至らなくても、生産性や技術力の向上につながった事例や雇用への波及状況等を具体的に記入してください。)

・新規設備の導入によって歩留まりが向上し、年間120万円のコストダウンにつながった。

既存製品の生産性が向上した事例。
工程とその理由
(加工速度や歩留まりの向上など)

・新たな抽出技術開発に取り組んだことにより、飲料以外への応用が広がった。

助成事業により、企業内の技術の向上
が図られた事例。
(具体的な数値を入れてください)

その他、補助事業による成果をご記入ください。

雇用人数	増加 維持	人 5人
------	----------	---------

助成事業による、雇用状況を記載してください。

7 助成金制度の利用満足度

☐ 1 利用して良かった ☐ 2 普通 ☐ 3 利用したが不満が多い	理由 (今後のため具体的に記入ください)
--	----------------------

8 意見・要望 (自由に記入ください)